

## 2019年 アメリカ学会第53回年次大会 プログラム

1. 開催日 2019年6月1日(土) 6月2日(日)
2. 会場 法政大学市ヶ谷キャンパス  
〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1  
交通アクセス : <http://www.hosei.ac.jp/access/ichigaya.html>  
会場校連絡先 中野勝郎 (電話:090-7195-3002 Email: nakanok@hosei.ac.jp)
3. 受付 大内山校舎1階
4. プログラム

### 第1日 6月1日(土)

#### 午前の部 自由論題 9:15~11:45

- \* タイトルの日英別は発表言語によるものです。英文プログラムはホームページをご覧ください。
- \* セッション名の後に教室名があります。教室記号 Y は大内山校舎、G は富士見ゲート校舎です。

#### 【Session A 人の移動をめぐる諸問題】 Y502

司会: 米山裕 (立命館大学)

討論: 佐原彩子 (大月短期大学)

大鳥由香子 (ハーバード大学・院)

「マリアムとリウケー—20世紀初頭における移民法と子ども」

原 真由美 (関東学院大学・講)

「宣教師と民主化—太平洋戦争と日米の動き」

小滝 陽 (関東学院大学)

「キューバ難民プログラムと1960年代アメリカの福祉改革」

#### 【Session B 生の諸相 Aspects of Life】 Y503

司会: 後藤千織 (青山学院女子短期大学)

討論: 二村太郎 (同志社大学)

Yoka TOMITA 富田蓉佳 (Columbia University GS コロンビア大学・院)

“‘With the Limited Time Left’: End-of-Life Care for Terminal Patients in New York City, 1940-1970”

今井祥子 (東京農業大学)

「アメリカ合衆国における日本食の受容とその真正性—レストラン Nobu の事例を中心に」

大賀瑛里子 (ハワイ大学マノア校・院)

『『ロマンスの地』としてのハワイ:ハワイにおける日本のウェディング・ツーリズムとジェンダー化されたハワイの文化表象』

**【Session C アメリカ経済と議会:US Economy and Congress】 Y504**

Chair and Discussant: Kazuhiro MAESHIMA 前嶋和弘  
(Sophia University 上智大学)

~~Edward ASHBEE (Copenhagen Business School)~~

~~[E] “The Trump Administration and the US-China Trade War”  
(canceled)~~

李環誠 (慶應義塾大学・院)

「アメリカ連邦議会において過去の公職経験が議員にもたらす効果—  
政党による州議会議員経験者の処遇を中心に」

山縣宏之 (立教大学)

「ラストベルトの産業構造動態と製造業労働者—トランプ現象の経済的背景・8  
州の事例分析から」

**【Session D Woman and Community】 Y505**

Chair: Hiroko IWAMOTO 岩本裕子 (Urawa University 浦和大学)

Discussant: Miyuki DAIMARUYA 臺丸谷美幸 (National Fisheries University 水産大学校)

Nanette Rasband HILTON (University of Nevada, Las Vegas)

“Margaret Fuller and Ida B. Wells: Wielding the Female Gaze”

Malia McANDREW (John Carroll University)

“‘Recruit the Women’: The Life and Career Lt. Ethel B. Weed in Post-WWII  
Japan”

~~Shawn HIGGINS (Temple University Japan)~~

~~“Ragtag Musicians and Group Identity in Paul Beatty’s *Slumberland*”  
(Canceled)~~

**【Session E Cultural Transformation】 Y602**

Chair: Mariko WATANABE 渡邊真理子 (Nishikyushu University  
西九州大学)

Discussant: Raphaël LAMBERT (Kansai University 関西大学)

Eli Park SORENSEN (The Chinese University of Hong Kong)

“Future Realism and the Exception: Carl Schmitt and Hollywood Sci-fi Movie”

Peter THOMPSON (Carleton University)

“After Work: Deindustrialization and Anxieties About the Future of Work in Three  
Contemporary Television Programs”

**【Session F Reconsideration of Framework】 Y603**

Chair: Yuko ITO 伊藤裕子 (Asia University 亜細亜大学)

Discussant: Hideaki KAMI 上英明 (Kanagawa University 神奈川大学)  
~~William BARCLAY (Carleton University GS)~~

~~“Once, I Was King” (canceled)~~

Joe RENOARD (Johns Hopkins University)

“The Limits of Ethnic Influence: American Politics and Northern Ireland,  
1968–1998”

昼食休憩 12:00～12:50

理事・評議員会 12:05～12:50 Y405

午後の部:

清水博賞授賞式 13:00～13:10 外壕校舎6階(薩埵ホール)

第一部 シンポジウム 外壕校舎6階(薩埵ホール)

「「人種」をめぐる論争を問い直す」 13:15～15:45

司会: 貴堂嘉之 (一橋大学)

討論: 渡辺靖 (慶應義塾大学)

報告: 中村寛 (多摩美術大学)

「ニューヨーク・ハーレムのストリートにおける「人種」概念」

石山徳子 (明治大学)

「アメリカ先住民族と人種—エリザベス・ウォーレンのDNA論争を事例に」

有光道生 (慶應義塾大学)

「21世紀アフリカ系アメリカ文学と「人種」の再定義—『今度は業火』(*The Fire This Time*)の兆候的読解」

渡辺将人 (北海道大学)

「人種と政治: オバマをめぐる政治的制約の再考」

第二部: JAAS-ASAK Panel 外壕校舎6階(薩埵ホール)

Roundtable “Teaching America in Transnational Contexts” 16:00～17:30

Chair: Mari YOSHIHARA 吉原真里 (JAAS/University of Hawai'i ハワイ大学)

Panelists: Ki Yoon JANG (ASAK/Sogang University)

Haruo IGUCHI 井口治夫 (JAAS/Kwansei Gakuin University

関西学院大学)

Junko ISONO KATO 加藤(磯野)順子 (JAAS/Waseda University

早稲田大学)

懇親会 18:00～20:00

〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1 法政大学市ヶ谷キャンパス

富士見ゲート館 3階 「カフェテリア つどひ」

TEL/FAX 03-6265-4761

<http://www.hosei.ac.jp/campuslife/support/tenpo/ichigaya.html>

(備考)運営:株式会社レパスト

第2日 6月2日(日)

午前の部 部会・Workshop 9:15~11:45

**【WORKSHOP A Walled Worlds: Sovereignty, Nationalism and Globalization: JAAS-ASA-OAH Collaborative Workshop】 G201**

Chair: Yuko MATSUMOTO 松本悠子 (JAAS/Chuo University 中央大学)

Discussant: Go OYAGI 大八木豪 (JAAS/Kinjo Gakuin University 金城学院大学)

Speakers: William NESSLY (ASA/West Chester University)

“Rethinking the Polycentric Transpacific in the Age of Trump’s Walled America”

Elliott YOUNG (OAH/Lewis and Clark College)

“The Excludables: Indefinite Detention of Mariel Cuban Refugees and the Longest Prison Uprising in US History”

Renee ROMANO (OAH/Oberlin College)

“King Memorials and Confederate Monuments: The Battle over the American Landscape”

Yoshiya MAKITA 牧田義也 (JAAS/Ritsumeikan University 立命館大学)

“Transcultural Entanglements in the Pacific World: War, Memory, and the Geopolitics of Humanitarianism”

**【部会 A アメリカ南部を再考する】 G401**

司会: 奥田暁代 (慶應義塾大学)

討論: 片桐康宏 (九州産業大学)

報告: 荒木和華子 (新潟県立大学)

「19世紀後半における南部黒人学校の転換の背景—白人至上主義、二つの黒人教育観、そして非政治的な闘いの功罪」

山中美潮 (同志社大学)

「再建期と人種平等という理想:ルイジアナ州ニューオーリンズ市の過去と現在を巡るその意義」

諏訪部浩一 (東京大学)

「消えゆく「南部」—フォークナーのスノープス三部作を中心に」

**【部会 B 20世紀アメリカにおけるリベラリズムの形成と展開】 G402**

司会: 加藤一誠 (慶應義塾大学)

討論: 秋元英一(千葉大学名誉教授)

報告: 三島武之助(城西国際大学)

「革新主義からリベラリズムへ—セオドア・ローズヴェルトと『ニュー・リパブリック』」

佐藤千登勢(筑波大学)

「ニューディール・リベラリズム再考—フランクリン・D・ローズヴェルトに対する評価をめぐって」

坂出健(京都大学)

「ネオリベラル経済政策下での競争・独占・国家」

### 【部会 C 身体の世界とアメリカ文化】 G403

司会: 北脇実千代(日本大学)

討論: 川島浩平(早稲田大学)

報告: 小森真樹(東京外国語大学)

「変えられる遺体:フィラデルフィアのミュージアムと「芸術」の蒐集・研究・展示」

丸山雄生(東海大学)

「剥製術から考える 20 世紀のアメリカ文化—身体・死・保存」

井谷聡子(関西大学)

「スポーツにおけるジェンダー規制—性差別と人種差別のインターセクション」

昼食休憩 11:45~13:15

分科会 12:00~13:15(内容については下記 分科会のご案内をご参照ください。)

総会 13:15~13:45 G201

午後の部 部会・Workshop 14:00~16:30

### 【WORKSHOP B Walled Worlds: Sovereignty, Nationalism and Globalization: JAAS-ASA-ASAK Collaborative Workshop】 G401

Chair: Hideyuki YAMAMOTO 山本秀行 (JAAS/Kobe University 神戸大学)

Discussant: Yukari KATO 加藤有佳織 (JAAS/Keio University 慶應義塾大学)

Speakers: Jolie SHEFFER (ASA/Bowling Green State University)

“Modeling Precarity, Solidarity, and Radical Uncertainty: Karen Tei Yamashita’s *Letters to Memory*”

Jungman PARK (ASAK/Hankuk University of Foreign Studies)

“Ideological Witch Hunt and Racial/Artistic Censorship in the 1950s: Case of Paul Robeson, African American Artist”

Rie MAKINO 牧野理英 (JAAS/Nihon University 日本大学)

“Routes to Internment: Disrupting Postcolonial Politics in Karen Tei

**【部会 D メディアの変革、文化の変容】 G402**

司会：生井英考（立教大学）

討論：門林岳史（関西大学）

報告：高村峰生（関西学院大学）

「触覚的直接的性と視覚的シンメトリー —ジェイムズ・エイジャーとウォーカー・エヴァンスの『今こそ有名な人々をたたえよ』における「忘れられた人々」の表象と倫理」

大勝裕史（東京経営短期大学）

「戦争の見せ方：メディアとしてのヴェトナム戦争映画」

横山佐紀（中央大学）

「歴史と記憶の装置としてのミュージアム」

**【部会 E Contingent Citizenship: Has the Korematsu Decision Been Overturned ?】 G403**

Chair: Yoko MURAKAWA 村川庸子（Keiai University 敬愛大学）

Speaker: Lorraine BANNAI (Seattle University)

“Repudiated in Words, but Not in Deed: The Meaning and Dangerous Continuing Relevance of *Korematsu v. United States*”

Discussants: Akihiro YAMAKURA 山倉明宏（Tenri University 天理大学）

“Selective Remembering of the Past and (Almost Willful) Misreading of History”

Masumi IZUMI 和泉真澄（Doshisha University 同志社大学）

“Remembering is Not Enough: Continuing Misconstruction of Japanese American Exclusion Cases as Legal Precedents”

Yoko MURAKAWA 村川庸子

“Serving Justice?: Pre-War Planning to Deny the Rights of Japanese-American Citizens”

**5. 注意事項**

- 1) 大会参加登録は、学会ホームページの大会参加登録ページ上で5月10日までにお願ひ致します。
- 2) 懇親会の参加には事前の申し込みが必要です。大会参加登録ページでお申し込みのうえ、懇親会費は大会当日受付にてご納入ください。懇親会費は5000円を予定しています。
- 3) 年会費の当日払いは受け付けられませんのでご了承ください。
- 4) 会場までの交通アクセスについては、学会ホームページをご覧ください。宿泊や交通手段の確保は各自でお願いいたします。
- 5) 非会員の大会参加費は1,000円です。大会受付にてお支払ください。
- 6) 理事・評議員会について、弁当の注文は受け付けませんので、ご了承ください。

## 6.会場案内

受付	大内山校舎 1 階
書店等出店	同上
会員用控室	Y404
本部スタッフ・役員控室	Y402
外国人ゲスト控室	Y403

6 月 1 日 (土)

午前

自由論題：Y502, Y503, Y504, Y505, Y602, Y603

昼食時

理事・評議員会：Y405

午後

授賞式、シンポジウム、ラウンドテーブル：外壕校舎 6 階 (薩埵ホール)

懇親会：富士見ゲート校舎 3 階「つどひ」

6 月 2 日 (日)

午前

部会およびワークショップ：G201, G401, G402, G403

昼食時

分科会：Y405, Y501, Y502, Y503, Y504, Y505, Y602, Y603, Y604, Y605

午後

総会：G201

部会およびワークショップ：G401, G402, G403

注

・Y=大内山校舎、G=富士見ゲート校舎

## 第 53 回年次大会 分科会のご案内 6 月 2 日(日) 12:00~13:15

### 1.「アメリカ政治」 Y405

責任者：菅原和行(福岡大学)ksugawara アットマーク fukuoka-u.ac.jp

テーマ：「アメリカにおけるメディアの分極化とフェイクニュース問題」

報告者：清原聖子(明治大学)

世界的に「フェイクニュース」という言葉が広まったきっかけは、2016 年アメリカ大統領選挙であった。2016 年アメリカ大統領選挙関連のフェイクニュースでは、「ローマ法王が共和党のトランプ候補を支持」や、銃撃事件にまで発展したいわゆるピザゲート陰謀論など

がよく知られている。本発表では、フェイクニュースの定義の説明から始め、なぜアメリカでフェイクニュース問題が顕在化したのか、その要因を探る上で、日本との比較の視座から、アメリカにおけるメディアの分極化やメディアに対する信頼度の低下、といったメディア環境の特徴について考察する。さらに、フェイクニュースの拡散がとりわけ選挙や政治に与える影響が懸念されるため、どのような対策が検討されているのか、その要点を紹介する。

## 2.「アメリカ国際関係史研究」 Y501

責任者:水本義彦(獨協大学)mizumotoy アットマーク hotmail.com

テーマ:「米ソ核軍備管理交渉史の再検討」

報告者:竹本周平(国際教養大学)

2018年10月、米トランプ政権は1987年のINF(中距離核戦力)全廃条約からの離脱を表明した。また2021年2月には、2011年に発効した新START(戦略兵器削減)条約の期限を迎える。だが、「新冷戦」と評されるまで米露関係が悪化している点から、後継条約の実現どころか、同条約の延長さえも危ぶまれている。1972年のABM(弾道弾迎撃ミサイル)制限条約が既に2002年6月に破棄されている事実も合わせると、冷戦期から継承された核の軍備管理体制は岐路に立っているとも言えよう。このような状況を鑑みると、今現在、核軍備管理の意義が再評価されていることは当然のようにも思える。本報告では、現在の米露核軍備管理体制の起源である冷戦期の米ソ核軍備管理交渉まで遡り、その意義と問題点を再検討することを目的とする。そして歴史的観点から現在の米露の核軍備管理交渉への示唆を試みる。

## 3.「日米関係」 責任者:末次俊之(専修大学)suetoshi007 アットマーク gmail.com

Y502

テーマ:「日米安保体制と辺野古基地の新設」

報告者:清水 隆雄(元・国立国会図書館専門調査員)

1996年、沖縄の米軍基地負担軽減策を話し合う行動委員会(SACO)は、米国海兵隊の普天間基地が、代替施設建設を条件として、我が国に返還されると発表した。代替施設の候補地としては、沖縄県、日本本土、グアムなどが挙げられたが、結局、沖縄県の辺野古に建設されることになった。この報告では、米国人の中には沖縄以外でも容認する姿勢を示す者もあり、また、沖縄県が負担軽減を訴えているにもかかわらず、なぜ沖縄に建設されることになったのか、その理由について検討する。この報告では、冷戦終了後の国際情勢の変化と、それに伴う米国の東アジア戦略の変化、米軍再編等の変化が、日米安全保障条約の内容にも変化も促し、新ガイドラインの設定や関連国内法の制定に至ったこと、及び我が国の防衛体制も、北方重視から島嶼防衛へと変化したことを中心に、抑止力維持など辺野古に建設を決定するに至った様々な要因を加えながら検討する。

## 4.「経済・経済史」 Y 503

責任者:名和洋人(名城大学)nawa アットマーク meijo-u.ac.jp

テーマ:「アメリカ退職後所得保障システムの変化 ～生計と政策的争点への影響」

報告者:吉田健三(青山学院大学)



20世紀末よりアメリカの年金システムは大きく変化してきた。いわゆる伝統的な確定給付型年金から確定拠出型年金への移行である。この変化は、アメリカ国内でも世界の年金政策をめぐる議論においても注目を集め、日本でも2001年のいわゆる「日本版401K」導入の際にモデルとして盛んに紹介されていた。それは、経済のIT化、グローバル化に対するアメリカ型福祉国家システムの一早い対応であるとともに、退職後所得、さらに生活そのものを不安定にするものとされ、アメリカ国内でも数々の政策的対応が検討されてきた。この報告では、1981年に401(k)プランが導入されて40年近くたつ今日において、この変化が実際にアメリカの現役労働者の退職資産形成、また高齢者世帯の所得状況にどのように影響を与えたのか、またそれが政策的論点の変化をもたらしたのか、という点について具体的に考察していきたい。

#### 5.「アジア系アメリカ研究」 Y504

責任者:野崎京子(京都産業大学)nozaki アットマーク cc.kyoto-su.ac.jp

テーマ:「カズオ・イングロとアメリカ」

報告者: 荘中孝之(京都外国語短期大学)

カズオ・イングロとアメリカ。この両者の間には浅からぬ縁がある。イングロは長崎生まれの被爆二世であり、初期の作品では原爆の存在が背景に意識されていた。また彼は映画や音楽といったアメリカの大衆文化から強く影響を受けている。短編集『夜想曲集』ではそのことが如実に見て取れる。そして海洋学者である彼の父は、アメリカの軍事的な研究にも関わったことがある。その父へのイングロ自身の複雑な思いは、作品の中にも微妙な影を落としているように思われる。さらに近過去のイギリスを舞台にしてクローンを主人公に据えた『わたしを離さないで』や、中世の同国において展開される『忘れられた巨人』といった近年の作品は、アメリカの、あるいはアメリカと日本との関係の物語として読むことも可能である。この報告では、イングロとアメリカとの関りを、伝記的な事実や作品の解釈を通じて探ってみたい。

#### 6.「アメリカ女性史・ジェンダー研究」 Y505

責任者:鈴木周太郎(鶴見大学)shutarosuzuki アットマーク me.com

テーマ:「【合評会】小檜山ルイ著『帝国の福音:ルーシィ・ピーボディとアメリカの海外伝道』(東京大学出版会、2019年)」

報告者: 小檜山ルイ(東京女子大学)、松原宏之(立教大学)、安武留美(甲南大学)

小檜山ルイ会員の著書『帝国の福音:ルーシィ・ピーボディとアメリカの海外伝道』についての合評会をおこなう。近代プロテスタント・キリスト教の宣教活動と帝国主義の関係について、20世紀前半に海外伝道促進活動に尽力し東京女子大学をはじめとするアジアにおける7つのキリスト教女子大学の設立に関わったルーシィ・ピーボディに焦点を当てて考察したこの本について、まずは小檜山会員より紹介していただく。その後、松原宏之会員と安武留美会員より書評コメントを公表し、小檜山会員による応答後、フロアと質疑応答およびディスカッションをおこなう。女性史、ジェンダー史、帝国主義、トランスナショナル・ヒストリー、教育史など、広範な関心を持つ会員による活発な議論を期待したい。

#### 7.「アメリカ先住民研究」 Y602

責任者:佐藤円(大妻女子大学) mdsato アットマーク otuma.ac.jp

テーマ:「プエブロ・インディアンの土器製作:文化が育んだ多様性」

報告者: 飯山 千枝子 (日本エッセイスト・クラブ)

1500年ほど前、プエブロ・インディアンの先祖にあたる人々が、現在のアメリカ合衆国南西部に定住して農耕と土器製作を始めた。現代のプエブロ・インディアンが製作する土器は、実用品から儀式用の伝統土器、みやげ品、工芸美術品、アート作品まで多様な広がりを見せている。その背景には、スペインによる250年余の植民地時代や1848年からのアメリカ合衆国による領有などの歴史がある。土器に見られる多様性は、人びとがプエブロ文化を基盤として各時代と柔軟に向き合い、臨機応変に生き抜いてきたことによって育まれたものである。さらに、サンタフェを中心とした白人文化も受け入れてプエブロ土器は変化している。そうした変化から生まれる多様性こそが土器製作の活力であり、また、伝統の刷新や文化を再生していく原動力であることを紹介したい。

## 8.「初期アメリカ」 Y603

責任者:石川敬史(帝京大学) t-ishikawa アットマーク main.teikyo-u.ac.jp

テーマ:「ポスト共和主義パラダイム期のアメリカ革命史研究—Gordon S. Wood vs. *William and Mary Quarterly*」

報告者: 鱒淵秀一 (共立女子大学)

今年度の本分科会では、今日のアメリカ革命史研究をめぐる現状認識の共有と世代間対話を目的としたオープンディスカッション形式のミーティングを試みる。議論への導入として、報告者が合衆国におけるアメリカ革命史研究の現状を「ポスト共和主義パラダイム期」と捉え、1990年代に共和主義論の影響力が減退し、21世紀に入り顕著となった大西洋史や大陸史、グローバル史の興隆の中で研究関心の多様化や新たなパラダイムの模索が進む状況について、私見に基づいて若干の整理を行う。その際、研究動向の網羅的レビューではなく、2010年代に入って顕在化した当該分野の指導的歴史家 Gordon S. Wood と指導的学術誌 *William and Mary Quarterly* の対立と論争を中心に紹介し、そこから浮かび上がるアメリカ革命史研究の現状と方向性を確認する。報告に続いて、今後のアメリカ革命史研究の展望について参加者を交えたディスカッションを行いたい。関心を共有する諸氏の積極的な参加を期待する。

## 9.「文化・芸術史」 Y604

責任者:小林剛(関西大学) go アットマーク kansai-u.ac.jp

報告: 山本 桂 (埼玉大学・講)

「対米観光政策にみる戦前期の観光地日本」

進藤 幸代 (多摩美術大学)

「スポーツ・ツーリズムにおけるホストとゲストの関係—runDisney を事例に」

今回の分科会では「ツーリズム」をテーマにして二人の研究者に報告を行ってもらおう。山本桂氏は戦前の対米観光政策を取り上げ、そこで提示された「観光地日本」について考察する。日本では1912年に官民合同でジャパン・ツーリスト・ビューローを創設し国外からの訪問客へサービスを開始したが、そこで製作されたガイドブックやポスターには日本の近代化や帝国主義を強調する一方で日本の古さや伝統をも押し出すという複雑な心理

が表象されていた。また、進藤幸代氏は、アメリカのディズニーリゾートで開催されるマラソンイベント runDisney を事例に、既存の観光地がスポーツイベントを組み込むことで見えてくるホストとゲストの関係性について報告を行う。runDisney において、ゲストはゲストのまなざしの対象になる操作がされており、ホストの役割をホストによって与えられていることを明らかにする。「モノから記号へ、記号から文化的体験へ」と消費社会における主要な取引対象が移行するとともに「ツーリズム」が占める文化的領域も拡大しているなか、このテーマについて議論できることは非常に意義深いと思われる。

## 10. 「アメリカ社会と人種」 Y605

責任者: 武井寛 (岐阜聖徳学園大学) h.takei アットマーク gifu.shotoku.ac.jp

テーマ: 「未完のプロジェクト—アメリカ型多文化主義とは何(だったの)か?」

報告者: 南川文里 (立命館大学)

2010年代のアメリカ合衆国の人種エスニック関係を考えるうえで、多文化主義という思想・運動・政策の位置づけが問われている。2016年大統領選挙におけるトランプ現象は、多文化主義の限界や問題点を露呈させた出来事として、21世紀の欧米社会における「多文化主義の死」という潮流の典型例にも挙げられる。しかし、これらの議論の多くは、多文化主義の国際的な多様性を考慮せず、またアメリカ型多文化主義が有する独自の歴史的な文脈への理解も不十分なまま、「少数者優遇」「集団優位」という1990年代までの反多文化主義論を反復しているだけのようにも見える。本報告では、(1)国際比較におけるアメリカ型多文化主義の独自性、(2)アメリカ型多文化主義が埋め込まれた歴史的な文脈の双方からアプローチすることで、あらためてアメリカにおける多文化主義とは何であったのかを考えたい。

### 2019年5月1日～2020年1月31日の通行動線(予定)

#### 【工事概要】

55・58年館の全面解体に向け、先行して58年館及びピロティ部を解体します。

#### 【通行動線】

##### ①正門 / 富士見ゲート⇄ボアソナード・タワー

フォレストガーデン出入口もしくは富士見ゲートと大内山校舎をつなぐ仮設連絡通路を経由しての往来が可能です。

##### ②正門 / 富士見ゲート⇄80年館 / 富士見坂校舎

従来どおり外濠校舎からキャンパス中央広場を経由しての往来が可能です。

##### ③正門 / 富士見ゲートから大内山校舎

富士見ゲートと大内山校舎をつなぐ仮設連絡通路を経由しての往来が可能です。